

科目名	環境問題入門
科目名(英訳)	Introduction to Environmental Science
科目ナンバー	FS116B01
詳細情報	授業外学修時間:週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	武井 史郎
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択:FS
他学科受講	
履修順序・履修情報	類似科目情報あり
担当者及び時間割	【春学期】 武井 史郎:木3－4
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	学部共通基礎科目である本科目は、これから応用生物学部の学生がそれぞれの専門分野で専門科目を学ぶ上で「環境」についての問題意識の形成を促すとともに、環境生物科学科の学生の場合は「環境」の専門家として社会で活躍するに際に必要な基礎的かつ入門的素養として身につけてもらうため、1年前期に開講される。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ③:○ ④:○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	調査・情報収集力 課題設定力 / 豊かな教養 専門的知識・技能 思考力

授業の主旨 (概要)	我々人類は約400万年の歴史における様々な困難を乗り越え、快適な生活を勝ち得た。しかしながら、現代人類の営みは確実に地球環境を蝕んできているばかりか、人類の存続すらも危うくしている。現代の環境問題はもはや、学問領域的にも地理的にもグローバルな問題として考えなくてはならない。逆に言えば、人類誰もが当事者であり、それぞれの視点で考えることができる問題でもある。本授業「環境問題入門」は環境問題にまつわる人類の営み、地球環境の変化、生物への影響といった視点からの紹介を行うほか、受講者自らによる問題提起と解決策の論理的思考を目指す。あなたは環境問題に対して何ができるのか？	
具体的 達成目標	環境問題に関する理解を深め、自ら問題を提起する力と解決策を思考する力を習得する。 これらにより、以下の具体的な目標を達成する。 1)環境問題にまつわる多様な情報の収集できる。 2)それぞれ収集した情報を統合し、問題提起や解決提案を論理的に推察できる。 3)推察した内容を文章化し、情報発信としての説明ができる。	
	1	【内容】 はじめに:環境問題にまつわる情報を「読む」ために
		【授業外学習】 情報収集の方法、および統計学について、事前に予習しておく。
	2	【内容】 地球環境と人類史
		【授業外学習】 地球環境の歴史、および人類の進化と歴史について、学修しておく。
	3	【内容】 環境問題にまつわる化学物質(1)
		【授業外学習】 環境問題で注目すべき「化学物質」を考え、情報を収集する。
	4	【内容】 環境問題にまつわる化学物質(2)
		【授業外学習】 環境問題で注目すべき「化学物質」を考え、情報を収集する。
	5	【内容】 大気汚染
		【授業外学習】 現在の大気汚染にまつわる現状と、その原因について考える。

④ 授業計画	6	【内容】	地球温暖化とCO2			
		【授業外学習】	地球温暖化を解決する手立てはあるのか？本講義の前後で思考を行う。			
	7	【内容】	放射能と原子力			
		【授業外学習】	福島第一原子力発電所事故の現状について、事前に学修しておく。			
	8	【内容】	前半(環境問題にまつわる人類の営みと地球環境の変化)の総括 中間テスト			
		【授業外学習】	第1回～第7回までに学修した環境問題について、解決に至る可能性のある問題について論述できるようにしておく。			
	9	【内容】	生物多様性			
		【授業外学習】	生物多様性を維持することの理由について考える。			
	10	【内容】	森林生態系と森林資源			
		【授業外学習】	森林生態系と森林にまつわる環境問題について、事前に予習しておく。			
	11	【内容】	海洋生態系と水産資源			
		【授業外学習】	水圏生態系と海洋にまつわる環境問題について、事前に予習しておく。			
	12	【内容】	環境問題と「ヒト」			
		【授業外学習】	公衆衛生学について、事前に予習しておく。			
	13	【内容】	食糧とエネルギー			
		【授業外学習】	日本および世界各国における食料およびエネルギー問題について、事前に学修しておく。			
	14	【内容】	環境問題と微生物			
		【授業外学習】	微生物が自然環境および人類にどう関わっているかについて、事前に学修しておく。			
	15	【内容】	後半(環境問題にまつわる生物への影響)の総括 まとめと展望:環境問題に対してどう取り組むか？			
		【授業外学習】	環境問題に対する新技術について、事前に学修しておく。			
④ 授業方法	講義はパワーポイントを使用し、必要に応じて講義後に小テストを実施し、その解説を行う。					
④ 成績の 評価方法	下記の合計点(250点/2.5=100点満点として換算)で評価する。 1)授業態度(5点満点×15回=75点) 2)小テスト(75点満点) 3)期末テスト(100点満点)					
④ 成績の 評価基準	上記の基準の基づいて100点満点に換算し、90点以上:S、80点以上A、70点以上 B、60点以上 Cとする。合計点60点以上で合格とする。					
④ 教科書						
④ 参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『新しい環境科学: 環境問題の基礎知識をマスターする 改訂2版』	鈴木孝弘	駿河台出版社	2000	4411040298
	2.	『最新研究で読む地球環境と人類史』	石弘之	洋泉社	2200	4800310008
	3.	『沈黙の春』	レイチェル カーソン	新潮文庫	2400	4102074015
	4.	『生物多様性概論 ―自然のしくみと社会のとりくみ―』	宮下直、瀧本岳、鈴木牧、佐野光彦	朝倉書店	2800	4254171641
④ 備考						
④ 関連 ホームページ						
④ メール						

④ アドレス	武井 史郎 ssm6042@fsc.chubu.ac.jp
④ オフィス アワー	